

不自由という名の自由について

夜白
星萌

登場人物

山井 風（やまい なぎ）

埼玉県出身、大阪の大学4年生。

一人暮らしで実家を離れたもののなかなかうまくいかず、バイトでもミスを連発、就活は失敗し、今後の人生を迷い、高層ビルを見上げる。ぼんやりといなくなりたいと考えているとレイに道を聞かれ、後を追うも待ち伏せされる。

ポロポロの精神であたたかな場所がほしかった。必要とされたかった。

ここからいなくなりたいと話せば銀河ゴンドラへ乗り込み、惑星メアへ。

レイ

惑星メアに住むヴァンパイア。

リムレリアという花が食糧。

生まれたときからこの惑星におり、祭りや花火という文化に興味があり、時々、銀河ゴンドラで地球に遊びにきている。生まれてすぐ両親は消えたきり。

ペギ

銀河ゴンドラの運営スタッフの一人。

惑星メアに住む妖精、レイの友人。

金魚と泳ぐのが夢で、祭り帰りのレイにお土産として金魚をもらいがち。

自身は銀河ゴンドラに一度しか乗っておらず、降りて最初に見たのが殺人現場だったので惑星メアと変わりがないと感じ、それから乗っていない。生まれた時、親が外敵から逃げられずこの子だけでも普通の子として扱われるようにと羽根をちぎられた。そのため飛べない。人間界にいたがネジによって惑星メアへ連れて行かれた。

ロイ

アメリカ人。22歳。麻薬取引に失敗し、

警察に追われているところをネジに助けてもらう。

そこから惑星メアへ移住。捕まった友人や亡くなった友人もいる。

孤独で何もなかった大学生になりたての頃、友人となってくれた人の勧めで麻薬に手を出してしまう。友人となった人は薬を売ったかっただけ。後に逮捕されている。

ネジ（天木…あまぎ）

惑星メアに住む天狗。

ロイを助けたり、レイやペギの兄的存在。

良い治安など存在してもないがとりあえず治安維持のためにパトロールをするのが仕事。好きでパトロールをしている。

人々の声、車の音から徐々にビル風の音になり
路地に入ったことを表わす。

風がダル着、財布、エコバックをポケットに入れ、
高層ビルを虚ろな目で眺めている。

風

高いな……痛いかな。

暗めな服装をし、白髪交じりの髪、赤い目に

金魚やリンゴ飴、わたがし、ベビーカステラなど

祭りの出店で飼ったと思われる物を手にしたレイが登場し、
風に近づく。

レイ

すみません、南森公園の行き方って。

風

この道をまっすぐいって、右に曲がる道がでてきたら
そこを曲がって下さい。

レイ

ありがとうございます。

と、駆け足気味で去ろうとするレイ。

ゲームの景品と思われるぬいぐるみを落としていく。

風

（拾い）落しましたよ！ お兄さん！

レイはそれを受け取ると軽く一礼する。

レイ

何度もすみません。では。

と、改めて駆け足で去っていくレイ。

風

不思議な人。

風はレイの後を追いかける。

レイが駆け足で入ってくるも風の足音に気づき隠れる。
風も駆け足で入ってくるもレイを見失い、あたりを見回す。

風 あれ、どこいった。

レイ ちょっと悪趣味じゃありません？

風 あ。

レイ 助けてくれたことには感謝しますが、これ、ストーキング行為では？

風 いや、あの。

レイ なんてね。冗談ですよ。

あなたもこの宝石の山々につられちゃったんですよね。

だけどこれらは俺のです。あ、金魚は友人のですけどね。

あなたが先ほどいた路地の近くのお祭りで買えますよ。

今回のお祭りは大きいですからね。

風 興味ないです。

レイ ……なんて？

風 その購入品、興味ないです。

レイ ……！？じゃあ、何が目的で。

風 ……お兄さん？

レイ ……解剖反対！

風 違います！なんか、やってるのかなって。

レイ とは？

風 風貌、的に？ コスプレというか、祭りの出し物とかなのかなって。

何かやってる人なのかと。

レイ いつ俺が人だと思ったんです？

風 え？

レイ もし人じゃなかったらどうするんです、危ないですよ。

風 ……別にいいですよ、どうなっても。

レイ もしかして、さっきビルを見上げてたのって。

風 ……

レイ さては訳あり、的なやつですか？

風 そんなおおごとじゃないですけど。

レイ ……楽しい場所、興味あります？

風 え？

レイ 楽しい場所です。とっても自由なところ。

あなた面白そうだから、招待してあげてもいいですよ。

風

自由を教えてください。ここから離れてもいいなら、ですけど。

……行きます。

レイ

（領き）この祠の裏の茂みの奥に、特別な乗り物があるんです。じゃあ、いきましようか。

暗転。

3

銀河ゴンドラ内

明転。

座っているレイと、立って窓に張り付き下を見ている風。

風

すごい！ たっかい！

レイ

よくみえるでしょう？ これから更に高くなりますよ。

風

……

レイ

……この銀河ゴンドラは惑星と惑星を繋ぐ特別な乗り物なんです。

風

……聞いてます？ おい、おい、聞けよ。

風

何ですか？

レイ

いや、えっと。堅苦しいのもなんですし、敬語やめませんか？

風

あと、俺はレイって言うんで好きに呼んで。

風

あっはい、いや、うん。

レイ

……名前は？

風

え？

レイ

名乗ったんだから名乗るのが人間界のお決まりなんじゃないの？

風

ああ、山井風です。

レイ

風ね、風はなんであんなにビル見上げてたの？ ビルが好き？

風

あそこから落ちたら居なくなれるかな、って。

痛みは感じちゃうのかな、とか、消えたいなって。

レイ

ふーん。

風

え？ 興味なし？

レイ

予想通りの回答だったから。

風

人間ってすぐ悩んで消えたーいって言うでしょ？

レイ

あなたも人間なんだからそういうときあるでしょ。

レイ

違うよ。俺、ヴァンパイア。

風

は？ こんなときにふざける？

レイ

ふざけてないって、ほら、牙。

風

……うわあああああ！？

レイ うるさいなあ、言ったでしょ？

凧はできる限りレイから距離を取る。

レイ そんなに離れる？

凧 ニセモノ、かもしれないし。

レイ ホンモノだって。

凧 いや、え、そんなファンタジックな存在、実在するわけ。

レイ それがしちゃうんだよね。今から俺たちが行くところにはもつというよ。

凧 誰か、誰か助けて！ ここから出して！

レイ 無理だが！？ 動くな！？ 暴れるなって！

騙してないしゴンドラ揺らすな！！

凧 ……私、食糧になるんですか？

私の血、不味いですよ！

レイ うん、食べないよ？ 食べない。

俺は惑星メアに咲くリムレリアって名の花を栄養としてんだ。

血って当たり外れあるし、いろいろだるいんだよね。

凧 知らない単語ばっか！

レイ 今、俺たちがこの銀河ゴンドラに乗って向かっているのが惑星メア。

俺の栄養は惑星メアだけに咲くリムレリアって花のみ。どう？ わかった？

凧 言葉の整理は。

レイ 俺、惑星メアには生まれたときからいるの。

両親はいないけど孤児院で妖精族のベギと親友になつてさ。

この金魚、そいつにあげるんだ。

凧 妖精族とかヴァンパイアとか、熱が出そう。

レイ 熱が出るほど楽しいぞ、惑星メアは。全てが自由だ

凧 ……怖くなってきた。

ガコン、と大きな音が鳴り、揺れが起きる。

レイ ついた。ようこそ、惑星メアへ。

音楽が入り、暗転。

4 惑星メア・ゴンドラ駅

明転。

乗車口、下車口、出口が目と鼻の先の小さな駅のホーム。
ゴンドラから下りたレイと凧のもとへ
片方の羽根が破れた好青年の風貌をしたペギがやってくる。

ペギ 楽しめたか？

レイ 最高だった！ これ、土産（と、金魚を渡す）

ペギ サンキュ、また家族が増えた。

凧 ……ところで、今はそんなおもちがあるんだな（と、凧を見渡す）
ハジメマシテ。

レイ いいだろ、いいおもちという名の人間だよ。

ペギ 人間？ お前！ また！

レイ まあまあ。

ペギ まあまあじゃない。最近やらかしたばかりだろ！

凧 最近？ やらかし？

ペギ 数十年前にお前みたいな人間を面白がって連れてきたんだよ。

すぐ帰したがな。

レイ ペギ、落ち着けて。こいつ凧って言うんだ。

消えたいとか居なくなりたいとか言ってたからさ、連れてきちゃった。
自由の楽しさを教えてやろうと思って。

ペギ お前はまたそうやって。

レイ 凧、こいつはペギ。さっき話した俺の親友、妖精族のペギ。

凧 こんにちは？

ペギ まあ凧、悪いことは言わない。さっさと地球に帰りな。

レイ ええー。せつかく連れてきたのに。

ペギ こんなところにくる現実逃避は楽しいか？

逃げた先にも逃げた先の障害ってのがある。

こいつは、レイはお前達と違って宙ぶらりんで生きてるんだよ。

障害にぶつかったことが少なえんだ。深く考えもしねえ。

そんなレイのような自由はなかなかできないぞ。

それに、傷つくのは君なんだ。俺はもう傷つく人は見たくねえ。

……もう一度言うがレイの自由は特殊だ。それでもいいのか？

……その方が気楽でいいじゃん。

縛られる現実より、うんといいいよ。

凧

ペギは大きなため息をつき、椅子に項垂れる。

レイ

ペギ、説得力はまだまだだな。

ペギ うるせえ。

凧 なんか、すみません。

ペギ そう思うなら帰ってくれ。

凧 それはできません。

ペギ なんでもちよつと強気なんだよ。

レイ 今日は凧の移住祝いだ。

凧 移住。住むってこと！？

レイ え、うん。

凧 替えの服ないよ！？ てか家もない！

レイ 誰かのはぎとれば？ 家も奪いなよ。

凧 犯罪じゃん！ 大罪だよ。

ペギ 惑星メアは自由な惑星だから犯罪とか法律とかないの。

凧 人を殺したら？

ペギ 弱い奴が悪い、って常識でしょ。

凧 知らないよ！ 常識じゃないし！

ペギ レイ、メアのこと何も教えてないだろ。

レイ うん、見れば分かるだろ、って思っ

ペギ て。お前さあ。（とレイにつかみかかる）

カコ、カコ、カコ、と下駄の足音がする。

ネジ またか。

レイ・ペギ ネジ！

凧 天狗！？

ネジが凧をゆったり見る。

ネジ レイ、またか？

ペギ まただよ！ ほんとこいつは。

レイ 俺の味方は！？

ネジ ……名前。

凧 え？

ネジ 名前はなんだ。

凧 えっと、山井凧です。

ネジ 何故ここにきた。何しにきた。

凧 レイに連れられて？

ネジ それだけか？

凧 えっと。

レイ ネジ。

凧 お前には聞いてない。

凧 えっと、ネジ？さん、が何を求めているかわからないけど、

私はもう、これから生きるためのルートから外れてしまっそうなんです。

もう片足は踏み外してるかな。みんなが立ってる場所に行けない。

このまま生きてたって、何も。

ネジ ……

レイ 不自由だよ、不自由に哀れな人間。

ネジ ついてこい、会わせたいのがある。

ネジと凧が去る。

ペギ 相変わらずネジはお節介が好きだな。

レイ いろいろ厳ついけどな。

ペギ ああ。そういえば、レイは相変わらずネジにびびってたな。

びびりレイくん出てたぞ。

レイ はあ？ お前だってびびってただろ！ 何も喋んなかったくせに！

ペギ 怖いだろ！ 来るときの顔怒ってたじゃん！

レイ いつまで経ってもネジは俺らの兄ちゃんってわけか。

ペギ 保護者だもんな。 てか、凧の件。

レイ ああ、哀れだろ。

ペギ 奴らの悩みって、何年経っても薄いな、

そりゃ文明発展も時間かかるわけだ。

レイ そこが不自由に哀れで面白いだろう？

落ちてもない地獄に怯えて命を絶とうなんてさ。

ペギ 面白いからってホイホイ連れてくん。

レイ まだ2人目ですー。

ペギ 前回のあいつだって！ まあ。

……どう転んでも悲しくなるのはお前だよ、レイ。

レイ わかってる、わかっているけど、あいつと似てたから。

ペギ ……別人だよ。

レイ ……わかっている、はずなんだ。

ペギ まあ、お前がいいならいいけど。

レイ そろそろ凧のどこいってやるか、ネジと2人じゃ怖いだろうし。

ペギ もくるよな？

ペギ 引き継ぎしてからいくから、後からいくよ。

レイ　じゃあ、またあとで。

レイは凧たちの方向へ、ペギは反対へと去る。
暗転。

5 酒場

銃声が響き渡る。

袖からロイの「ざまあねえな！」と叫び声をする。
明転。

ロイがピストルを手に登場し、テーブル席へと腰かける。

ポケットから小さな麻袋を取り出し、中から紫色の草を取り出す。
その草を見ながらロイはにやけを抑えられない。

下駄の足音がすると、驚いた顔になり、音の方向を見る。

ネジと凧が登場。

ネジ　ロイ。

ロイ　パトロールか？

ネジ　そうだとしたら？

ロイ　……どうもしない。

ネジ　……はあ、どうもこいつも事件ばかり。

いい加減大人にならんか。

ロイ　惑星メアでは可愛い方だろう？

今日だって殺しはしてない。

ネジ　……お前に紹介したいやつがいる。

ロイ　隣にいる奴か？

ネジ　鋭いな。

見りゃわかんذار。待て、そいつ、人間か！？　惑星メアに人間か？

ネジは頷き、凧を見る。

凧　……？

ロイ　（ため息をつき）相変わらず紹介が下手だな。俺はロイだ。お前は？

凧　山井凧、です。

ロイ　で、なんで紹介したいんだ？

ネジ　お前と同じ人間だからだ。

ロイ　……それだけ？

ネジ 人間同士つもる話もあるだろう、俺は一度離れるよ。
凧・ロイ え？

ネジが退場。

ロイ (笑い) 本当に口下手だな。何が言いたいかわかんねえよ、なあ？
凧 そう、ですね。

ロイ そんなに堅くなるなよ、凧。俺もロイでいいからさ。
凧 はあ。

ロイ 堅い堅い、ここは惑星メアだぜ。気楽でいいんだよ。
ここに来たのは最近か？

凧 ああ、うん。今日。

ロイ 今日！？ それはまた突然だな。

凧 レイに連れられて。

ロイ 今日は祭りだったのか。

凧 わかるの？

ロイ 祭りの度に地球に行ってるからな。

凧 そうなんだ。

ロイ で、なんで連れられてきたんだ？ 何か相談でもしたか？

凧 レイを追いかけたら、ずるずると。

ロイ お前も変わってんな。レイを追いかけるなんて。

凧 白髪交じりの髪、赤い目なんて珍しいじゃん。

ロイ だからってついていくなよ。

凧 まあ別に、もうどうなってもいいし。

ロイ ……何かあるんだな。

凧 ……人からしたらなんだってレベルではあるんだけど。

ロイ やらかしたか？

凧 やらかしたかというか。

ロイ (悲しそうな表情) 話せねえか、無理もねえよ。初対面の人間なんだ。
警戒して正解だよ。こんな俺と親しくしたい人間なんて。

凧 違う！ 親しくしたくないとかじゃなくて。私、話すの下手だから
どう話せばいいのかな、と。

ロイ ありのまま話してくれたらいいさ。ここは自由の惑星だから。

凧 じゃあ……私は、何やってもうまくいかないの。

ロイ 友達だってできないし、できたと思ったら離れちゃうから

凧 ずっとひとりぼっち。

ロイ バイトだって精算ミスするし、提供も間違えて、お客さんに水もかけて

就活だつてもちろん失敗。最終面接なんてほど遠い。何もできないし、何やつてもうまくいかないの。

……そうか。

ロイ

風

この時期に内定出てないとか、終わってるよね。

大学卒業して新卒で新社会人、こんなルートも歩めないの。

みんなと同じになれない。私の人生レールなんて、もう。

同じ、がいいよな。

ロイ

わかつてくれる!?

風

悩みは違うけど、俺もみんなと同じに戻れるなら、戻りたいよ。

ロイ

ロイも、なにかがあつてこの惑星にきたの?

風

そう。

ロイ

……教えてくれないんだ。

風

え?

ロイ

親しくしたくないから話してくれないの? 私にそう言ったよね?

風

……ずるいな、聞き方。

ロイ

同じ事言っただけだよ。

風

親しくしたいから、話したくないこともあるんだよ。

ロイ

その感覚、私にはわからないな。

風

……勉強になつただろう。

ロイ

全然、むしろ距離ができた感じ。

風

なんなら騙されて自分だけべらつた子羊の気持ち。

ロイ

押すな、風は。

風

話してくれる気になつた?

ロイ

俺も友達が居ない寂しい奴だった。そんな俺に話しかけてくれる奴がいた。

風

そいつは俺に薬を売ってたただけだったが、俺は友達だと思って仲良くなる

ロイ

うと手をつけた。おかげでいろんな人間と話した。楽しかったなあ。

風

もつともつとって、栽培から売買までやったら、もちろんお縄だ。

ロイ

追いかけてらる俺を、通りかかった何も知らないネジが助けてくれたんだ。

風

あの日から今日まで、それからずっと、この惑星にいる。

ロイ

……

風

嫌だよな、こんなやつ。じめつたくてネチネチと、陰気臭いだろ?

ロイ

俺の方が人生レールってやつ、ぶっ壊れてんだ。

風

どうやったって真つ当な人間には戻れない、

ロイ

深層は黒い塗料が塗られた人間にしか戻れないんだ。

風

どうやって生きるかなんて自由だ。もう俺と関わらなくていい。

ロイ

ロイは離れようとする。

風 そんなこと、一つも言っていないよ。

ロイ ……思っては、いるだろ。

風 ないよ、ない。びっくりはした。だけど、ロイに比べて私は、
なんてちっぽけなんだろうって。

ロイ 風。

風 私は、白にも黒にもなれない、何も成し遂げることもない。

きつとこれからも。何もできないなんて悲しいな。

私にはなんでそんな力が、価値もないんだろう。

レイが入ってくる。

レイ それは、自分自身でつくってくんじゃねえの？

風 レイ。

レイ ロイ、久方の人間で丸くなったか？

別に。普段と変わんねえよ。

レイ ふーん。で、風は自分の悩みの答えはでたの？

ちっぽけさを再確認しただけ。

風 あっそう。

ロイ レイの話は？

レイ え？

ロイ レイが自分自身でつくるに至った話は、風にしたのか？

レイ まだ。

ロイ そこ、話してやりなよ。

レイ 聞きたい？

風 聞けるなら？

レイ 聞きたいかあ、そうかそうか。

風 嫌ならいいけど。

レイ (遮り) 俺孤児なんだよ。

風 あ、え。

レイ この惑星の路地にいた俺をネジが拾って、孤児院に預けてくれたんだ。

孤児院っていつでも教育があるわけじゃないし、自分で自分の道をつくっていい
くしかなかった。俺の生き方はその時から変わらない。自由だ。

風 それは、自由なのかな。

レイ 自由だよ。自分でみつけて自分でつくっていく。

ペギだって俺と同じようなものだよ、俺より後に孤児院にきたから

俺とは自由のカタチは違うけど。

風 カタチの違う自由？

レイ　　ペギはこの惑星で生まれてない。

それに親に羽根をちぎられ、その場で両親とも失った。

風　　酷い。

レイ　　人間に見つかったんだってさ。妖精だとはれないように羽根をちぎられ、

両親が身代わりとなって、ペギはネジに助けられたんだ。

何もなかった俺と、そんな過去を持つペギの描く自由は違う。

あいつの中にあるブレーキは、俺にはない。

風　　なんか、さ、みんなはそんな過去があっても強く生きたり、

悩んだりしてるのに、なんで私は。私はこんなにもちっぽけなんだろう。

悩む権利すらないくらいこの悩みは弱いのに、なんでみんなみたいに

私は強く生きられないんだろう。

せめて普通に、どうして普通にも生きられないんだろう。

なんで大半が乗れるルールにすら乗れないんだろう、

死ぬことすらできないんだろう。

レイ　　ロイや風の前に、この惑星にきた人間がいたんだ。

そいつも俺が連れてきた。

ロイ　　お前、そいつの話するの嫌がってただろ。

レイ　　ああ。だけど、風があいつに似てるんだ。もう、失っちゃいけないって。

風　　失う？

レイ　　俺が初めて連れてきた人間。

あいつもお前みたいにくよくよ悩んでるやつだった。

シンソツってやつで会社に入ったがうまくいかないってぼやいてたんだ。

風　　新卒……

レイ　　そんなに悩んでるならってこの惑星に連れてきた。

ペギやジネジたちとも、いろんなところに出かけて遊んで

ずっとここに居たいっていったくせに、あいつ帰ったんだ。

僕は今、重大なプロジェクトを学ばせてもらってるからって。

風　　仕事があるなら、まあ、仕方ないよね。

レイ　　そんなことない。嫌なら辞めればいい。ロイみたいにここに住めばいい。

あいつは俺にいろんな祭りを教えてくれた。もっと一緒に出掛けたかった。

風　　じゃあ、また会いに行けば。

レイ　　行ったださ。行った。あいつ、出会った場所にも、会社にも居なかった。

風　　え？

レイ　　家のクローゼットの中だった。

風、ロイ、驚愕とした表情になる。

レイ 首にはロープ、腕、腹、足には痣。部屋はゴミ溜め。異臭。

テーブルの上にはメアに戻りたい、あの楽しさが恋しいの置き紙。
あんなことになるなら、あいつを帰さなきゃよかった。

もしくは、ここに連れてこなきゃ、メアを知らなきゃあいつは、
比べることもなく、生きていたかもしれない。俺のせいで、あいつは。

昔、その話を聞いたがったこと謝るよ。

レイ 私にいい。あいつの生きた証でもあるんだ。

死ぬくらいなら助けを乞えよ、苦しみながら生きるより、

メアで新しく、別の人生をはじめればいい。生き方は一つじゃない。

レイ 悲しいよね、きつと。親しい人が亡くなるって、悲しいんだよね。

あの頃は悲しかったかもな。

レイ 今は違うの？

悲しいって言葉で片付けたらあいつに申し訳ないって思った。

レイ 自殺って道は、あいつが選んだ道なんだ。俺が口を出す権利はない。

メアだって殺人は、死ぬことはよくある、それをとがめられることはない。

選択するのは、人生するのは、全部自由なんだ。メアは本当に自由だ。

誰の目も気にしないからな。

……だけど、それは、それこそ悲しいこと。

誰からも関心を寄せて貰えない、孤独だよ。

レイ 孤独、ひとり。だけど、レイはベギやロイと仲良しじゃないの？

近くにいただけだよ。

レイ 地球と変わらない、むしろ離れてるよ。たまたま出会って友達になるまでは

同じだ。だけど、メアはいつ死ぬか、いつまで生きるかの単位が地球と違うん

だ。死んでも弔わない。死んでも関心なんて永遠にない。仲が良くても、悪くてもな。

レイ でも、それはほとんど地球と同じじゃないの？

気にかけてくれる友人も、血の繋がりがあつてもいない。有償も、無償の愛もない。自分しか、自分を気にかける奴はいない。

地球の方が温かったよ。戻れるなら、俺だって。

メアでゼロから人生をはじめるか？ それとも、元の人生を続けるか？

レイ 私は……

……何を選んでもいいんだよ。

レイ え？

どっちで生きても、これからの道には必ず障害がある。

レイ どう乗り越えるかは自分で見つけるんだ、見つけていくんだ。それが楽しい。

俺は、そうやって生きてきた。これが失敗とか成功とかそんなのはわからない

けど、俺はこうやって生きるのが楽しい。

風 乗り越えて、いけるのかなあ。

レイ なんなら、メアの方が苦しいかもな。

風 自由なの？

レイ 自由だから。地球では悩んで答えが出せないようなことも、

メアでは最短で答えを出すこともある。殺人ってことな。

あと、祭り！ 祭りみたいな娯楽もねえんだよな。

地球はいろんな祭りがあつて楽しい！ 信号とか変なルールが多いけどな。

レイ 確かにレイの言うとおりだ。ここは変な奴しかいねえから、

地球と違って苦しいかもな！

レイ 変な奴？

レイ レイとかな。

レイ お前――！

ペギが慌てた様子で入ってくる。

ペギ 大変だ！ ゴンドラが壊れた！

風・レイ・ロイ え！？／ええ！？／は？

音楽が流れるとともに暗転。

6 ゴンドラ駅

明転。

扉が外れたり、部品が外れたりしているゴンドラの元へ

ペギ、レイ、遅れてロイと風がやってくる。

風 なんで、そんな走るの速いの。

ロイ ヴァンパイアと妖精だ。バケもんだからな。

レイ これはまた、ボッコボコだな！

ペギ 笑い事じゃねえよ。つたく、もう地球に行けないからな。

レイ は！？

ペギ 当たり前だろ、動かないどころか乗れないからな。

レイ 祭りは！？

ペギ 永遠の別れかな。

レイ どうにかしてよペギー――。

ペギ 無理。直したことないし、ていうか誰もそんなことできねえだろ。

レイ それは。

ロイ　　そうだな。

　　風はゴンドラに近づき、部品をいくつか拾う。
　　不思議そうにのぞき込むロイ。

ロイ　　風？

風　　工具とかないの？　さすがにクレーンとかはないだろうけど、ネジとか。

　　ネジが入ってくる。

ネジ　　呼んだか？

風　　ネジ違い。ないの？

ペギ　　あ、ああ、持ってくる。

　　ペギが去る。

レイ　　お前、すげえな。初日で。

風　　何が？

レイ　　いや、なんでも。

ロイ　　俺でも初日には無理だったな。

ネジ　　いいさ、これくらいで。

レイ・ロイ　　いいんだ。

　　ペギが工具箱をもって駆け足でやってくる。

ペギ　　これでいいのか？

風　　応急処置くらいなら、にはなりそうだけど。

　　風がゴンドラに手をかけ、修理をはじめる。

ペギ　　まじか。

ネジ　　レイ、これまた面白い人間を連れてきていたみたいだな。

レイ　　俺もびっくり。ていうか、何があったんだ？

ペギ　　一瞬目を離したらこのザマだ。

ロイ　　銃痕があるな。

レイ　　じゃあただの喧嘩か。

ペギ　　あれだけここでは何もするなって言ってるのに。

レイ　メアだから仕方ないな。

風　できた。

その他　まじで！？

風　大学で建築学んでるんだよね。

ペギ　風、ここに永遠就職しねえか？

レイ　ペギはゴンドラへの愛が人一倍重くておかしいんだ、無視しろ。

ロイ　なあ風。それ活かせばいいんじゃないか？

建築、学んでるなら好きなんじゃないのか？

風　……

ロイ　学び始めた理由があるはずだろ？

風　昔、ブロックでつくった家を見て、みんなが素敵な家って褒めてくれたの。

それが嬉しくて、また、素敵な家って笑顔で言われる家を建てるのが

夢だったの。……ああ、なんで忘れてたのかな。

レイ　思い出したってことは、心の中にはあったんだろ。それ、叶えにいけば？

風　レイ。

ペギ　本当はゴンドラの為にずっとここに居てほしいけど、

やりたいことをやらなきゃね。

風　でも、もうこんな時期に求人なんて、来年になっちゃうかも。

ロイ　いいじゃねえか、レールなんて。

風　……そうだね。私、みんなみたいに飛び抜けてレールから落ちてないや。

レイ・ペギ・ロイ　おい。

風　私だって、地球でだって、もっと自由に生きられるよね。

今日までの私の、不自由に見えてたもの、全部自由だったんだ。

私、素敵な家、つくるよ。

ネジ、お面の下で泣いている。

ロイ　ネジ、泣くなよ。

ネジ　まともな奴ほどこの惑星を出て行く。

風　また来るよ。

風以外の顔が曇る。

風　何？

レイ　人間が向こうから来ることはできないんだ。

風　私は来たよ？

レイ　俺に連れられてだろ？　メアにいる人間しか、ゴンドラは

風

見つけられないんだ。奇跡が起きない限り、風はメアには、もう。起きるかもしれないじゃん、その奇跡。てか、起こすよ。

みんなには、いつか私が建てた家を見て笑顔で素敵って言わなきゃいけないからね。私、ゴンドラの修理のお礼もらってないから。

レイ

それもそうだな。

ペギ

じゃあ、俺が責任を持って地球までゴンドラを操作するよ。

風

本当？　ありがとう。

ロイ

レイ、送ってやれよ。

レイ

帰りは人間一人でも帰れるだろ。

ネジ

全くお前は、紳士には程遠い。

レイ

はあ？

風

いいよ、一人で帰れるなら一人で帰るから。

風はゴンドラへと向かう。

風

ねえみんな、素敵な時間をありがとう。

みんなには感謝してもしきれないよ。

本当に、本当に楽しかった。じゃあ私、行くね。また。

風はゴンドラに乗り込み、ドアが締まる。

風とゴンドラが見えなくなっていく。

ペギ

これで良かったのか。

レイ

ああ、風は、きつと……。自由に生きていくさ。

ネジ

本当に行ってしまうんだな。

ロイ

ネジ、意外と寂しくなるんだ。

ペギ

意外じゃないよ、あの時もネジは泣いてた。

今回はレイの方が寂しただけだな。

レイ

寂しくねえし、別に。これはあいつの選択だから。

あいつの選んだ、自由なんだ。